



FRONT INTERVIEW

フロントインタビュー

「男性と子どもにとっての 男女共同参画」

NPO法人ファザーリング・ジャパン代表
吉田 ^{ひろき}大樹 さん

NPO法人「ファザーリング・ジャパン」(FJ)の新代表に7月就任した吉田大樹さんは3人の子育て真っ最中のシングルファザーです。

「父親が変われば、家庭が変わる、地域が変わる、企業が変わる、そして、社会が変わる」「『よい父親』ではなく『笑っている父親』を増やすこと」をミッションに活動するFJを通じて、男女共同参画社会の形成に男性の立場から取り組む吉田さんに「男性や子どもにとっての男女共同参画」についてお話をお聞きしました。

父親も子どもとしっかり向き合う

両親が共働きで高校生ぐらいから家事の手伝いをしていたせいか、結婚してからも家事を分担するのは自然な流れでした。子どもが生まれると当然、育児も。高校生のとき尊敬していた先生が育児休暇を取得されて、当時は男性が育休を取るのとはとても珍しくインパクトを受けました。育児や家事に関わることに全く抵抗が無かったのは、そういう育ってきた環境のおかげだと思います。

そうは言っても、離別するまではやはり育児や家事の「主体者」は妻で、自分はちょっと引いたサポーター的なところがあつたかなと思います。変わったなと思うのは、自分が子どもとがっつき正面から真剣に向き合うようになったこと。お互いに喜怒哀楽をぶつけ合い、素で向き合える関係になって絆は深まった気がしますね。子どもと関わる時間は「量より質」と言う人もいますが、私は「質より量」派ですね。一緒に共有する時間が長い方が、いい面も悪い面もより理解し合えると思います。

もちろん、仕事をしながら3人育てるわけですから決して楽ではありません。時間的にも経済的にも厳しい中で、単調でタイトな日常の繰り返しに気持ちが折れそうになったこともありました。そんなとき「どうせやるなら楽しんでやろう」と思い、「晩御飯は1カ月間同じものは作らない」というマイルールを作り、SNSにアップするようになりました。それだけのことで料理も楽しくなる…小さな楽しみを見つけていくことが行き詰まらないコツかもしれません。

プロフィール

1977年生まれ(札幌市出身)、埼玉県在住。2003年3月、日本大学大学院法学研究科政治学専攻修了。2003年4月～12年6月「労働安全衛生広報」「労働基準広報」(労働調査会発行)記者。08年7月FJ会員、10年7月FJ理事を経て、12年7月より現職。鴻巣市男女共同参画審議会委員。3児(03、06、08年生まれ)のシングルファザー。(NPO法人ファザーリング・ジャパン <http://www.fathering.jp/> 2012年11月30～12月1日にファザーリング全国フォーラムを鳥取県米子市で開催予定)

FJの活動で社会全体の変革につなげたい

FJのスタートは父親支援事業でしたが、目指しているのは単なるイクメン応援団体ではありません。「イクメン」というのはある意味、「気づき」のきっかけであり、育児と向き合うことで、これまでの自分の働き方、生き方を見直すきっかけにしてほしいですね。現在「イクジブプロジェクト」という事業も立ち上げています。たとえば地域の若い世代の子育てを、定年退職したシニア世代がサポートするシステムができれば若い世代はとても助かるし、地域の活性化にもつながります。中高年が長年培ってきたスキルや経験を社会に還元できれば、彼らにとっても社会全体にとっても大きなプラスです。またより若い世代にもこの問題を知り、考えてもらおうと学生対象の組織も作りました。

父親の意識・働き方が変われば、家庭が変わります。そういう男性が増えてくれば当然、企業もワーク・ライフ・バランスに配慮した労働形態へと意識を変えざるをえません。女性の育児と仕事の両立のハードルも低くなり、少子高齢化に伴う社会不安の解消や次世代育成にもつながり、10年後、20年後の日本社会に大きな変革をもたらしてくれると思っています。男性も女性も、子どもも高齢者もみんなが希望を持って支え合って生きられる社会に少しでも近づけていきたいですね。

※ SNSとは「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」の略称で人と人のつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービス。代表的なものにTwitter、Facebook、mixiなどがあります。

特集

第2次鹿児島市男女共同参画計画を策定しました

男女共同参画社会の形成に向けて平成14年に策定した「鹿児島市男女共同参画計画」は平成23年度末で終了し、「第2次鹿児島市男女共同参画計画」が平成24年度からスタートしました。

この計画は社会情勢の変化や国の第3次男女共同参画基本計画、鹿児島市男女共同参画推進懇話会の提言、鹿児島市市民意識調査の結果を踏まえて策定されました。

今号ではこの計画の目指すものについて「現状はどうなっているのか?」「これから目指すものは?」「そのために自分たちは何ができるか(何をすればいいか)?」を考えてみます。

かごしまのジェンダー博士
「幸せの青い鳥」の
すてつぷさん

社会情勢の変化や
市民意識、
これまでの課題を踏まえ
5つの視点で
取り組みます。

計画の期間 平成24年度～33年度(10年間)
※平成28年度中間見直し

計画の視点

- 1 DV対策の強化
- 2 女性の活躍による鹿児島市経済社会の活性化
- 3 男性・子どもにとっての男女共同参画
- 4 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)
- 5 防災における男女共同参画

